

**デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会
小規模中継局等のブロードバンド等による代替に関する作業チーム（第18回）
議事要旨**

1. 日時

令和6年2月22日（木）17時00分～18時14分

2. 場所

総務省内会議室及びWEB

3. 出席者

(1) 構成員

伊東主査、石塚構成員、市川構成員、伊藤構成員、大矢構成員、小川構成員、落合構成員、京屋構成員、クロサカ構成員、齋藤構成員、高木構成員、高田仁構成員、高田光浩構成員、滝川構成員、平林構成員、三友構成員

(2) オブザーバ

（一社）電子情報技術産業協会（岡村オブザーバ）、長田オブザーバ

(3) 総務省

山崎大臣官房審議官、飯倉情報流通行政局放送政策課長、山口同局放送技術課長、佐伯同局地上放送課長、岡井同局衛星・地域放送課長、飯村同局情報通信作品振興課長、細野同局放送政策課外資規制審査官、西村同局放送技術課技術企画官、平野同局衛星・地域放送課技術企画官

(4) 実証事業請負事業者

株式会社情報通信総合研究所 水野 主任研究員

4. 議事要旨

(1) 実証事業の一部調査結果の速報

- ・株式会社情報通信総合研究所から、資料18-1に基づき、説明が行われた。
- ・説明後、質疑応答を行った。構成員等からの発言は、以下のとおり。

【三友構成員】

全て理解したわけではないので、既に御説明いただいたことなのかもしれませんが、中身の確認をさせていただきたいと思います。主に2点ございます。集計結果において、総合評価で受け入れられないと

いう方々が一定数いらっしゃる、これは仕方がないなとは思いますが、この方々の属性というのは調べられていらっしゃるのでしょうか。また、実際、この被験者の方々がそれぞれの地域で、普段どういった番組を見ていらっしゃるのかというのが、評価にも影響するのではないかと考えています。例えば資料18-1の57ページにおいて、他地域の放送番組も視聴したいという回答が結構多いですね。他地域の放送番組を視聴したいということは、他地域のローカルコンテンツを視聴したいということだと思えるのですが、それは自分の地域でもローカルコンテンツを視聴しているということの反映のように思います。調査の範囲外かもしれませんが、他地域の放送番組を視聴したい理由として、何か背景があれば教えていただきたいです。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

まず、1点目に関してですが、属性情報は取得しておりまして、今回の単純集計に反映していないものも結構ございます。具体的に申し上げますと、テレビをどの程度長く視聴している方か、インターネットにどの程度触れていらっしゃる方か、全国調査でお尋ねしたような、どの程度インターネットの操作ができる方か、あるいは先ほどもございましたが、普段どのような番組を視聴しているのかということについてもお尋ねをしています。今回、速報ということで単純集計しか御報告できていないのですが、その辺りを踏まえた分析も可能です。また、説明させていただいたとおり、基本的には1人の被験者に対して30分以上ヒアリングを実施しております。ヒアリングの焦点は、総合評価がなぜそのような評価になっているのかということについてお尋ねをしているものが中心です。ただし、今回の報告の中では、ヒアリングの結果を反映したものとしては御報告できておりませんので、受け入れられない方は、何を捉まえてそう評価したのか、あるいは逆に、受け入れられると評価をした方の中にも、強くではなく、ややにした理由などもあると思っております、その辺りのこともお尋ねしております。今後あわせて御報告させていただきたいと思っておりますので、分析を進めたいと思います。

2点目に関して、離れた地域の放送番組を視聴したいということについては、私が実際にお話を聞いた数名の方のヒアリング内容は分かるのですが、ヒアリングの結果を踏まえて、全体的にどういったことを言っていたのかを御報告させていただいた方がよろしいかなと思います。基本的には30分のヒアリングの中で、全ての調査項目について、なぜこの回答を選択したのかについて話を聞いておりますので、ヒアリングの結果を踏まえて、あるいは、世帯別調査（調査A）もほぼ同様の設問にお答えいただくこととなりますので、次回は併せて分析をした上で御報告させていただきたいと思っております。

【三友構成員】

今回の目的は、どちらかといえば視聴の方の分析だと思っておりますので、中身にはあまり触れられなかつ

たようにも思いますが、気になったところもございます。インターネットで放送を提供する場合に、東京からの放送を提供するだけでは駄目で、やはりローカルコンテンツをどの程度地域に合わせて提供できるかということが重要になってくると思います。その際に、先ほどの資料18-1の57ページでは、かなりの方が他地域の放送番組も視聴したいとおっしゃっていますので、地域性の重要性がどの程度あるのかは見てくるのかなと感じており、質問をさせていただいた次第です。また何か分かったことがありましたら教えていただければと思います。

【伊東主査】

私から一つお伺いします。資料18-1の31ページに、見逃し配信によってサッカー中継を視聴した際の画質について記載されておりまして、普段視聴する地上波放送番組との違いを確認されているのだと思います。資料18-1の13ページで御説明がありましたが、高画質の場合は1080pの映像をH.264を使用して6Mbpsで符号化しているようですので、このスペックからは地デジとほぼ同程度の画質が得られているのではないかと推測されるのですが、50%近い被験者の方が「やや悪くなった」、「かなり悪くなった」、「非常に悪くなった」のいずれかを選択回答しています。今回は、同じ映像について地デジとの比較は実施されていないと思いますが、いかがでしょうか。

また、動きの激しいスポーツ番組であれば、地デジそのものの画質も一定程度劣化している可能性がございますので、元の映像を確認することはできるのでしょうか。今後、品質・機能要件等を検討していく際に、今回のプラットフォームで用意してもらったスペックでは、代替として不十分であるという結論につながってしまうのではないかと、少し気になった次第です。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

まず、伊東主査からお話があったように、私も説明を割愛してしまったのですが、当初は、集合検証（調査B）において、地上波の映像を含めたブラインドテストを実施するつもりでございました。ですが、4会場全てで地上波の受信が困難ということが判明しました。我々もポータブルアンテナを持って行き受信を試みたのですが、それでも受信ができず、調査に至らなかったという経緯がございます。よって、先ほど伊東主査からお話があった資料18-1の31ページの画質の評価については、普段視聴したものと違うかということに関して、想像でお答えいただいているに過ぎないところがあります。普段の視聴環境は被験者毎にばらばらだと思っていまして、大きなテレビを近い距離で見ている方もいらっしゃると思います。その辺りを一緒になってお伝えしているところもございますので、先ほどの三友構成員の御質問の中にもあったのですが、視聴距離、普段視聴しているテレビの大きさ等もお尋ねしていますので、もう一度精緻に調査結果を見ていきたいと思ひます。

一方で、画質をブラインドで見えていただいた際に、我々の質問の仕方は、違いがあるかということをお尋ねすることには変わりありませんので、それに対して違いがあるだろうとお答えされた方が一定程度いらっしやっただのと思っています。そこについて評価をしていくのは、現時点となっては難しいところではございますが、単純に比較をしたものではないという、伊東主査の御指摘はそのとおりでして、それを踏まえてどのように評価をしていくかということがあると思っています。

また、地上波、もともとの映像との比較ができるかということですが、放送事業者様から御提供いただいた元の映像は確かにございますので、それと配信したものとの比較というのはできる状況にはございます。検証プラットフォームを構築した株式会社IIJ様にお尋ねしたところ、条件として、必ずしも同じ映像品質になるとは限らない要素があるというお話も伺いました。その辺りも含めて、次回の報告の中では御説明をさせていただきたいと思っております。

【伊東主査】

今からもう一度、地デジも併せて主観評価をお願いしますということとはとても無理なことだと思いますので、関係者の皆様がもし元の地デジの映像も視聴できるのであればチェックしていただいて、どの程度の画質なのかを少しご確認いただければ良いのかなと思います。動きの激しい映像になると、MPEG-2でも実際にはそれなりの劣化が生じると思いますので、その辺りを確認していただければと思いました。H.264で6Mbpsというのは、個人的にはそこそこ良いスペックだという感覚がございましたので、それでは不足ということになると、もう一段階上げていかなければならないという話になってきます。今後、品質・機能要件を検討するに際して気になったということです。元の映像をチェックしていただければと思います。よろしくをお願いします。

【落合構成員】

全体として、大変詳細に御調査いただきまして、参考になる結果が多く含まれていたと思っております。一方で、調査結果の中で、気づいた点もありますが、追加して御意見もいただければという趣旨も含め、幾つかお伺いできればと思っております。

まず、やはり画質や遅延に関するアンケートの結果で、比較的、遅延の方は気付かなかったという話がありつつも、画質については、ある程度意見が分かれているところがございます。実際、今回の調査は、代表的な地点における調査であろうとは思いますが、画質でやや厳しい評価を受けそうだなと思われるような地域に当たってしまう可能性は、どの程度出てくるものなのでしょうか。地域毎にかなり違うと思いますし、一概にということはないのだろうとは思いますが、そういった地域がどの程度あり得るのか、お分かりになる範囲で教えていただきたいというのが1つ目です。

2つ目が、フタかぶせに関してです。資料18-1の40ページについて、フタかぶせに不満を残された方が、204名のうち168名いらっしゃったので、論点として非常に強く出ているように思います。この点は、どちらかといえば総務省の方々へのコメントでもありますが、著作権に関する処理については、BB代替作業チームだけではなく、放送コンテンツの制作・流通の促進に関するワーキンググループも含めてですけれども、十全を尽くしてほしいということで、ニーズとして非常に重要な結果が得られたのではないかと思います。取組自体を進めていただいているかと思いますが、これ自体重要な一つのエビデンスではないかと思ったところです。

3つ目として、資料18-1の54ページのアップデート・視聴履歴データの活用に関してです。この中で、視聴履歴データの活用に関する部分でございますが、個人データの取得に対する不安よりも便利な機能への期待が高いという結果を記載いただいております。もちろん、そのほかの部分として、別のページではセキュリティに関して気になるという結果もあり、一定の安全性担保はやはり重要であろうとは思いますが、今後、こういったところを考慮しつつ、視聴データの利用について御議論していくべきに関わってくださると思います。深掘りしていただく際に、実際どのような意見があったのか、どのような点を心配されているのか、どのような機能を提供してくれるのであればデータを使っても良いとお考えになられているのか、感触を確認いただけないかと思いました。

多くなりましたが最後に、資料18-1の58ページの費用負担に関して、固定ブロードバンドあり、なしという部分でいくらまでの金額であれば、という設問がございました。固定ブロードバンドありの方については、これは金額的に、インターネット配信で視聴するため、さらに追加の料金がかかるのかどうかがあると思います。そもそも追加の料金がかからないで視聴できるのであれば、あまり問題にならないようにも思っており、金額はどういった趣旨でご回答になっているのかを教えていただければと思います。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

幾つか御質問をいただいたのですが、基本的に全ての項目はヒアリングで確認している内容です。ただし、3点目に御質問をいただいたデータの活用について、資料18-1の54ページの個人データを取得されるのは不安が大きいという、この不安の理由についてはどこまで深く聞けたかという点、調査全体がそこにフォーカスがなかったこともございまして、深くは聞いていない可能性がございます。ただし、なぜこれを選んだのかということについては必ず触れてはいますので、ヒアリングの結果をひもといていきたいと思っております。世帯別調査（調査A）でも同様のことを伺っていますので、その結果も併せて御報告したいと思っております。

順番前後しますが、資料18-1の58ページの費用負担について、こちらは仮にインターネット経由に

自宅のテレビ視聴の方法が変わるとして、それが有料になりますとなった場合を想定してお答えくださいという聞き方をしております。実際にそうなるのかということはさておきながら、いくらになったらテレビの視聴をやめますかということについてお尋ねをしたものになります。

また、1点目の画質の評価に関する御質問ですが、地域性があり、どこかの地域であれば受け入れられないといった可能性もあるとは思いますが。一方、今回は単純集計をしまして、4つの地域はばらばらで、エリアごとに特性があるという説明をしておきながら、ばらしての分析がまだできていない状況です。ひょっとすると、単純な地域性だけではなく、細かく精緻に見ていくと、画質の受け止め方は、例えば普段インターネット動画にどの程度接しているかに関しての方が、インパクトが大きいかもしれません。そういった地域性に限らず、何に引っ張られていることによる結果なのかについては、可能な限り分析を進めていきたいと思っております。また、これらについてもヒアリングをしておりますので、その結果も踏まえて、引き続き詳細に御報告をさせていただきたいと考えております。

【落合構成員】

そうすると、御質問させていただいた費用負担の点は、基本的にそのままブロードバンドが引いてあって、そのまま視聴でき、かつ、何らかの通信のアプリケーションについて費用がかからないという状況にある方であれば、良い、悪いということを述べているものではないということと理解してよろしいでしょうか。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

おっしゃるとおりです。

【伊東主査】

今回の結果で今までの調査結果と少し違ったこととして、ABRに対する反応が少し厳しめに出ている地域だったため、その結果を見ていると画質の低下に対して鋭敏だった可能性もあるのかなと思えました。ヒアリングの結果を精査していただければありがたいです。

(2) 今後の実証事業の予定

- ・株式会社情報通信総合研究所から、資料18-2に基づき、説明が行われた。
- ・説明後、質疑応答を行った。構成員等からの発言は、以下のとおり。

【伊東主査】

今からどのように対応ができるのかということはありませんが、資料18-2の7ページに、各機能についてどのように評価するのかという表が載っております。「チャンネル切替え」については、重要度の評価になっているのですが、本日の資料18-1の45ページを見ますと、かなりの被験者が切り替わる時間が遅いと感じているようですので、程度の評価が必要なのかなと思いました。それに対して、「ソフトウェアのアップデート処理」というのは、利用者にとってそれほど頻度が高い行為ではないため、程度の評価まで行う必要があるのだろうかとの疑問も少し感じたのですが、いかがでしょうか。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

御指摘のとおりだなと思います。この評価の方針の表も含めて、最終的にはきちんと精査をして、進め方については検討したいと思います。

【伊東主査】

チャンネルの切替えについてはレスポンスが一つのポイントになるのではないかなと思ったので、可能な範囲で考えていただければと思います。

(3) 閉会

- ・事務局（細野外資規制審査官）より、第19回会合は令和6年3月28日（木）の開催を予定している旨、連絡があった。

（以上）